

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	Volumetric CT により測定した肺容積と慢性呼吸器疾患の関わり
研究責任者	研究代表者: 浜松医科大学 医学部 内科学第二講座 須田隆文 当院研究責任者: 呼吸器内科 中村秀範
研究実施体制	研究責任施設: 浜松医科大学 医学部 内科学第二講座 須田 隆文 共同研究施設: 国立病院機構天竜病院 副院長 白井 正浩 聖隷三方原病院 呼吸器科 部長 横村 光司 聖隷浜松病院 呼吸器内科 部長 中村 秀範
研究期間	臨床研究審査委員会承認後 ~ 2023 年 12 月
対象者	2000 年 1 月~2020 年 12 月までに慢性呼吸器疾患のため胸部 CT を施行された方 200 名
研究の意義・目的	近年 CT 装置の進歩により、詳細な肺野領域の情報が得られるようになりました。CT 画像を用いて、三次元的に肺容積を測定することも可能となっています。現在、慢性呼吸器疾患の進行の評価には血液検査、画像検査に加えて呼吸機能検査が行われています。しかし、慢性呼吸器疾患のある状態では呼吸機能検査の負担は大きく、一部の疾患 (PPFE や CPFE など) においては呼吸機能の検査結果と病気の進行が必ずしも一致しないこともあります。CT は比較的侵襲が少なく、呼吸状態の悪い場合にも行うことが可能な検査です。一方で慢性呼吸器疾患において CT 画像を用いて測定した肺容積の意義は明らかではありません。このため本研究では、CT 画像を用いて測定した肺容積と慢性呼吸器疾患のかかわりを調査します。
研究の方法	研究デザイン 多施設共同研究の後ろ向き観察研究 方法 : CT 画像を用いて、画像解析ソフト(vincent <sup>®</sup> )により肺容積を定量評価し、主要評価項目である肺容積と予後との関係や副次的評価項目である肺容積と血液検査結果や呼吸機能検査の関係を明らかにします。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 呼吸器内科 (氏名) 河野 雅人 TEL:053-474-2222(代表) 呼吸器内科外来 9:00~17:00 平日